

## 株主メモ

決算期	毎年3月31日
配当金受領 株主確定日	利益配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月中
基準日	毎年3月31日および中間配当金の支払を行うときは9月30日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して停止いたします。
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都杉並区和泉2丁目8番4号 証券代行事務センター(〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)3223-7111(代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本支店



株式会社オーハシテクニカ

(証券コード:7628)

〒163-0921 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階  
TEL.03-5321-3411(代)



この事業報告書は、エコマーク認定の古紙配合率100%の再生紙を使用し、アロマフリータイプ大豆油インキで印刷されています。

# 第52期 中間事業報告書

平成15年4月1日から平成15年9月30日まで

# SOLUTION PROVIDER



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は当社の事業経営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今上半期、国内経済は輸出や設備投資の増加など、ようやく景気回復の兆しが見え始めてまいりました。その中で、当社の主力市場であります自動車業界が、全体の生産台数ではやや伸び悩んだ一方で、携帯電話機出荷台数が大幅な伸びを見せました。

このような状況下、全社を挙げて経営基盤の強化と業績の拡大に取り組んでまいりました結果、期初の予想を上回る業績を確保することができました。

引き続き業績を安定的に拡大させていくため、当社では全社員一丸となり、地球環境の改善に貢献することを目的とした「開発提案型企業」を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長  
古尾谷 健

2003年12月

経営ビジョン

グループの存続と繁栄を目指し、  
生産財要素部品等を対象とする  
環境を重視した  
「開発提案型企業」として、  
世界のお客様に信頼される  
オーハシテクニカを実現する。

CONTENTS

ごあいさつ ..... 01  
 連結財務ハイライト ..... 02  
 トップインタビュー ..... 03  
 事業戦略 ..... 04  
 クローズアップ ..... 05  
 連結財務諸表の要旨 ..... 07  
 単体財務諸表の要旨 ..... 08  
 株式の状況 ..... 09  
 会社概要 ..... 10

	第49期中間期 (自平成12年4月1日 至平成12年9月30日)	第50期中間期 (自平成13年4月1日 至平成13年9月30日)	第51期中間期 (自平成14年4月1日 至平成14年9月30日)	第52期中間期 (自平成15年4月1日 至平成15年9月30日)
売上高(百万円)	12,133	11,963	12,003	13,664
経常利益(百万円)	992	696	943	1,220
中間純利益(百万円)	456	304	441	673
株主資本(百万円)	8,313	9,187	9,620	10,683
1株当たり中間純利益(円)	52.77	34.56	49.95	76.16
1株当たり株主資本(円)	949.95	1,042.44	1,088.47	1,207.62



注) 第48期(平成12年3月期)におきまして、株式の分割並びに新株発行を実施しております。

—古尾谷社長に聞く—

### Q.1 自動車関連部品事業が拡大する見通しは？

部品サプライヤーにとって、自動車市場は製品の量の多さと寿命の長さにおいて、他に例のない市場です。さらに、現在で言えば、環境、低燃費、安全性といったように常に新しいテーマに向けて製品開発が進められています。

これらは日系メーカーに限ったことでなく、世界規模で進められているわけです。ですから、環境や社会の変化に合わせて、装着される機器類の精密部品を開発していくことで、今後も年間5%ぐらいの成長は十分続くと思っています。

### Q.3 海外事業戦略の進捗状況と見通しについて聞かせてください。

当社の主要なお客様の海外進出に対応して、私どもが海外で活躍できる場はますます増えていくと思います。この9月末で、海外拠点数は現地子会社とその支店、営業所を合わせて11カ所となりました。おかげさまで、これらはすべて黒字化し、かつ無借金です。日本、米国、タイ、英国、中国の「世界5極相互補完体制」を確立することで、今後ともグローバルに業績を上げていきたいと考えています。

近い将来、海外事業の売上高をグループ全体の5割まで高めることが目標です。

### Q.2 今期以降、情報・通信関連部門が大きく伸びると見込んでいる理由は？

情報・通信関連市場は、一時期、IT不況の影響を受けましたが、基本的に成長産業であると思っています。特に当社の主力である携帯電話機については、中国などアジア地域、欧州とまだまだ普及の余地が見込まれます。またヒンジの機能面を見ても、開閉型、スライド型、回転型など、高機能化が進んでいます。

当社も2002年6月に上海に生産工場を作りましたが、この寄与を含めて、大きな伸びが期待できると予想しております。

### Q.4 東証一部上場について

当社は東証二部へ上場させていただいて間もないわけですが、目標としては一部への指定替えを当然考えています。ただし、企業を経営する立場から言えば、まず安定した収益基盤と経営基盤の確立が最優先すべきことであると考えます。さらには、株主の皆様、お取引先、社員等への還元その他を果たし、社内体制が一部上場企業として恥ずかしくない時期が来れば、その時には申請しようと思います。

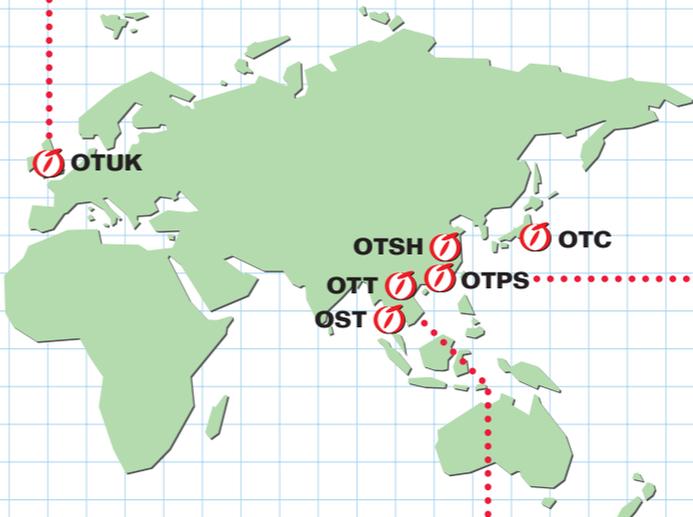
日本を軸とした世界5極相互補完体制を構築し、ソフトとハードの両面において世界規模の事業活動を展開し、グローバル事業の拡大を図っています。



OHASHI TECHNICA UK, LTD. (OTUK)

#### ヨーロッパ戦略への拠点である OTUK

EU地域において自動車部品、情報通信部品の販売会社として、1999年12月、英国スウィンドンに「OHASHI TECHNICA UK, LTD. (OTUK)」を設立。販売・調達活動（EU圏内・世界最適調達の推進）を展開しています。近い将来EU圏に製造工場の保有を計画中です。



OHASHI TECHNICA (THAILAND) CO., LTD.

#### アジア戦略への拠点である OTT/OST

アジア地域における自動車部品の製造工場及び販売会社として、1997年1月、タイ国プラチンプリに「OHASHI TECHNICA (THAILAND) CO., LTD. (OTT)」を、また2000年10月同地に「OHASHI SATO (THAILAND) CO., LTD. (OST)」を設立しました。アジア地域ばかりでなく、日本、米国、欧州への部品供給拠点として活動を展開しています。



OHASHI TECHNICA U.S.A. INC. (OTUS)



OHASHI TECHNICA MANUFACTURING INC. (OTUSM)

#### 北米の現地生産をバックアップするOTUS/OTUSM

お客様の現地生産をバックアップするために、1987年4月、米国オハイオ州サンバリーに現地法人「OHASHI TECHNICA U.S.A. INC. (OTUS)」を、また1994年、同地に冷間圧造部品を中心とした製造子会社「OHASHI TECHNICA U.S.A. MANUFACTURING INC. (OTUSM)」を設立しました。自動車関連市場、情報通信関連市場を中心に、ユーザーのニーズに的確に応えるとともに、新規ユーザーの開拓を積極的に推進しています。



#### 飛躍する中国市場での拠点 OTSH/OTPS

アジア地域における携帯電話機需要の拡大を見込んで、2002年6月中国（上海市）に情報・通信関連部品の製造・販売子会社「大橋精密電子（上海）有限公司」を、また2003年9月には自動車関連部品の販売子会社「大橋精密件（上海）有限公司」並びに同広州事務所を設立しました。



大橋精密電子(上海)有限公司

## オーハシテクニカと携帯電話用ヒンジ

オーハシテクニカは自動車関連部品が主力製品ですが、ここ数年、携帯電話用ヒンジの売上げを大きく伸ばしてきました。今、携帯電話機市場は、世界規模で大きな発展が期待されています。オーハシテクニカとヒンジについて、わかりやすくご説明したいと思います。

### Q.1 携帯電話機のヒンジって何?

ヒンジとは、折りたたみ型携帯電話機の「ちょうつがい」部分のことです。2003年中に国内で発売される携帯電話機のおよそ9割が折りたたみ型といわれるほど、今ではあたりまえになりました。オーハシテクニカは、この折りたたみ型携帯電話機をわが国で初めて採用し、現在もトップメーカーであるNEC社向けに、すべてのヒンジを供給してきました。これまでの総出荷個数はおよそ1億2千万個、あなたの身の回りでもお目にかかれていますでしょうか。

### Q.2 自動車部品メーカーなのに、どうしてヒンジを作っているのですか?

オーハシテクニカは、創業以来、時代変化を予測して新しい事業分野を切り開いてきました。船舶・車両から重電、家電、自動車、そして新しい時代を見据えて情報・通信関連事業にも乗り出そうとしているところです。現在、事業の中心は自動車部品ですが、いろいろな新しい分野にも、常にチャレンジしているのです。



携帯電話用ヒンジの自動化ライン自社設備



OTSH(上海)での生産

### Q.3 ヒンジは、どのように作られているの?

オーハシテクニカでは、現在、国内では写真に見られるように全自動ラインによる生産が行われています。ここでは、最大、1分間に30個のヒンジが作り出されていきます。昨年6月には、ヒンジ生産のための子会社を中国上海市に設立し、生産を始めました。中国で作られるヒンジは、主として中国および欧米向けに出荷されます。

### Q.4 いろいろなヒンジがあるのですか?

「ケータイビジネス」の進化とともに、携帯電話機の形もめまぐるしく変化しています。バータイプの携帯電話機から始まり、フリップ型、折りたたみ型、スライド型、回転型、さらにはカメラ付へと、ホットな開発競争はこれからも続いていくものと予想されます。こうしたなかでオーハシテクニカは、これからも独自の強みを活かしたさまざまなヒンジを開発していく予定です。



ヒンジ

### Q.5 海外市場での見通しは?

今、第3世代携帯電話の普及を機として、中国をはじめとするアジア諸国、さらには欧米各国でも需要が拡大し始めています。モバイルインターネットの本格導入に伴い、カメラ搭載電話機の普及も急速に進むと予想されます。

## 連結財務諸表の要旨

区分	前中間期 平成14年9月30日現在	当中間期 平成15年9月30日現在	区分	前中間期 平成14年9月30日現在	当中間期 平成15年9月30日現在
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>13,333</b>	<b>15,373</b>	<b>流動負債</b>	<b>6,721</b>	<b>7,794</b>
現金及び預金	5,048	5,750	支払手形及び買掛金	6,028	6,856
受取手形及び売掛金	6,116	6,921	未払法人税等	281	402
たな卸資産	1,930	2,355	賞与引当金	128	172
繰延税金資産	152	193	その他	284	364
その他	120	194	<b>固定負債</b>	<b>542</b>	<b>611</b>
貸倒引当金	△ 34	△ 42	退職給付引当金	370	409
			役員退職慰労引当金	152	178
			その他	19	24
<b>固定資産</b>	<b>3,646</b>	<b>3,812</b>	<b>負債合計</b>	<b>7,264</b>	<b>8,406</b>
有形固定資産	2,418	2,417	<b>少数株主持分</b>		
無形固定資産	201	183	少数株主持分	95	95
投資その他の資産	1,026	1,211	<b>資本の部</b>		
投資有価証券	186	361	資本金	1,277	1,281
繰延税金資産	191	203	資本剰余金	1,066	1,066
その他	655	658	利益剰余金	7,097	8,081
貸倒引当金	△ 6	△ 11	その他有価証券評価差額金	19	79
			為替換算調整勘定	159	174
			資本合計	9,620	10,683
<b>資産合計</b>	<b>16,980</b>	<b>19,185</b>	<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>16,980</b>	<b>19,185</b>

### ポイント1. 固定資産

海外では積極的な設備投資を行っております。

### ポイント2. 負債

海外子会社を含めて、すべて借入金はありません。

区分	前中間期 (自平成14年4月1日 至平成14年9月30日)	当中間期 (自平成15年4月1日 至平成15年9月30日)
<b>売上高</b>	<b>12,003</b>	<b>13,664</b>
売上原価	9,120	10,247
売上総利益	2,882	3,416
販売費及び一般管理費	2,003	2,198
<b>営業利益</b>	<b>878</b>	<b>1,218</b>
営業外収益	74	44
営業外費用	9	42
<b>経常利益</b>	<b>943</b>	<b>1,220</b>
特別利益	3	—
特別損失	80	36
税金等調整前中間純利益	865	1,183
法人税、住民税及び事業税	482	531
法人税等調整額	△ 59	△ 23
少数株主利益	1	2
<b>中間純利益</b>	<b>441</b>	<b>673</b>

### 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

区分	前中間期 (自平成14年4月1日 至平成14年9月30日)	当中間期 (自平成15年4月1日 至平成15年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,647	71
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 572	△ 321
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 88	△ 173
現金及び現金同等物 による換算差額	△ 115	△ 2
現金及び現金同等物 の増減額	871	△ 425
現金及び現金同等物 の期首残高	4,176	6,175
現金及び現金同等物 の中間期末残高	5,048	5,750

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 単体財務諸表の要旨

区分	前中間期 平成14年9月30日現在	当中間期 平成15年9月30日現在	区分	前中間期 平成14年9月30日現在	当中間期 平成15年9月30日現在
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>11,309</b>	<b>12,627</b>	<b>流動負債</b>	<b>6,364</b>	<b>7,400</b>
現金及び預金	4,239	4,656	支払手形	187	212
受取手形	850	814	買掛金	5,607	6,362
売掛金	5,262	5,977	未払法人税等	277	394
たな卸資産	803	964	賞与引当金	128	136
繰延税金資産	83	119	その他	163	295
その他	104	138	<b>固定負債</b>	<b>542</b>	<b>519</b>
貸倒引当金	△ 33	△ 42	退職給付引当金	370	317
			役員退職慰労引当金	152	178
			その他	19	24
<b>固定資産</b>	<b>4,013</b>	<b>4,561</b>	<b>負債合計</b>	<b>6,906</b>	<b>7,920</b>
有形固定資産	906	716	<b>資本の部</b>		
無形固定資産	173	157	資本金	1,277	1,281
投資その他の資産	2,933	3,687	資本剰余金	1,066	1,066
投資有価証券	2,097	2,423	利益剰余金	6,052	6,841
長期貸付金	3	248	利益準備金	147	147
繰延税金資産	199	191	任意積立金	5,370	5,920
敷金保証金	311	276	中間未処分利益	535	774
その他	327	561	その他有価証券評価差額金	19	79
貸倒引当金	△ 6	△ 13	資本合計	8,416	9,268
			<b>負債及び資本合計</b>	<b>15,323</b>	<b>17,189</b>
<b>資産合計</b>	<b>15,323</b>	<b>17,189</b>			

### ポイント3. 固定資産

ファブレス企業ゆえに、固定資産の比率はたいへんに低い割合となっています。

### ポイント4. 負債

単体ベースでも、もちろん無借金経営となっています。

区分	前中間期 (自平成14年4月1日 至平成14年9月30日)	当中間期 (自平成15年4月1日 至平成15年9月30日)
<b>売上高</b>	<b>9,851</b>	<b>10,977</b>
売上原価	7,789	8,585
売上総利益	2,062	2,391
販売費及び一般管理費	1,519	1,657
<b>営業利益</b>	<b>542</b>	<b>734</b>
営業外収益	231	238
営業外費用	7	7
<b>経常利益</b>	<b>766</b>	<b>965</b>
特別利益	2	—
特別損失	91	31
税引前中間純利益	676	934
法人税、住民税及び事業税	296	401
法人税等調整額	△ 57	△ 47
<b>中間純利益</b>	<b>438</b>	<b>580</b>
前期繰越利益	96	194
<b>中間未処分利益</b>	<b>535</b>	<b>774</b>

### ポイント5. 営業外収益

毎年、海外子会社からの配当金が営業外収益に計上されています。

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 株式の状況

(平成15年9月30日現在)

●会社が発行する株式の総数	32,000,000株
●発行済株式総数	8,846,720株
●資本金	12億8,105万円
●株主数	1,270名

●大株主	持株数	持株比率
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	532,400	6.01%
株式会社 みずほ銀行	440,500	4.97%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	391,000	4.41%
日本生命保険相互会社	380,000	4.29%
資産管理サービス信託銀行株式会社	378,700	4.28%
阿部 泰三	356,300	4.02%
古尾谷 健	346,860	3.92%
日本トラスティサービス信託銀行株式会社	284,400	3.21%
久保 好江	254,890	2.88%
久保 雅嗣	254,890	2.88%

### 株主の皆様のためのIR情報

#### ●配当政策

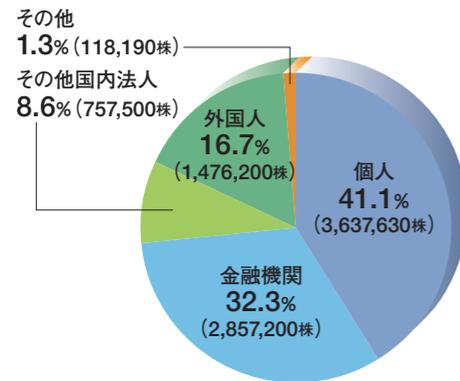
前期は1株当たり20円配当を実施いたしました。

今期からは、一段と利益と連動した配当政策を進めてまいります。具体的には配当性向20%をめどとして、配当政策を実施していく予定です。

#### ●優待制度

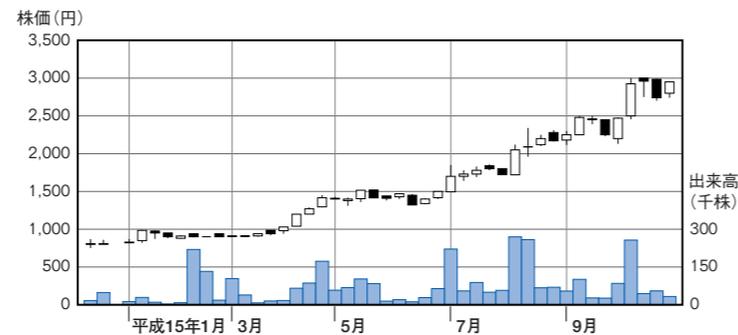
前期から株主優待制度を取り入れました。期末持株数に応じて、「お米券」を贈らせていただいております。

### 株式数分布図



### 株価チャート

(平成14年12月18日～平成15年10月末日)

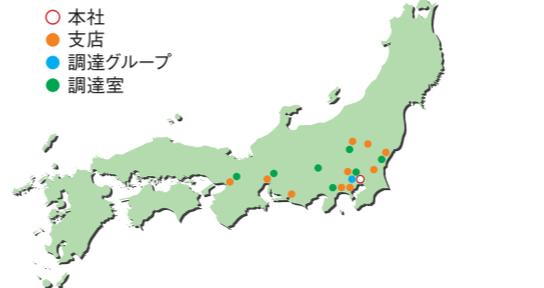


## 会社概要

(平成15年9月30日現在)

社名	株式会社 オーハシテクニカ OHASHI TECHNICA, INC.
本社	〒163-0921 東京都新宿区西新宿2-3-1
創業	1946年(昭和21年)11月3日 1953年(昭和28年)3月12日 株式会社に改組
資本金	12億8,105万円
従業員数	連結465名、単体173名
事業内容	①自動車、情報・通信を中心とした組立産業の各種製品に使用される要素部品等の企画・設計・開発並びにその販売 ②海外子会社が販売する部品の国内での調達と輸出業務

役員	代表取締役社長	古尾谷 健
取締役	増田 孝一	明
取締役	菊地 孝一	忠
取締役	久保 田 忠	忠
取締役	青山 清治	治
取締役	窪田 清	清
取締役	前川 富義	義
取締役	堀内 郁夫	夫
常勤監査役	高木 重輝	輝
監査役	土田 一富	三
監査役	三好 徹	弘
監査役	田口 弘	弘
執行役員	小林 正一郎	衛
執行役員	田中 春次	衛
執行役員	古性 雅人	衛
執行役員	柴崎 衛	衛



### 国内事業ネットワーク

開発本部	東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階
日立支店	茨城県ひたちなか市田彦998-7
東関東支店	茨城県守谷市百合ヶ丘1-2412
栃木支店	栃木県宇都宮市東宿郷5-1-16 ルーセントビル5階
北関東支店	群馬県太田市西矢島581-6
立川支店	東京都福生市熊川987 ヤマガタビル2階
川崎支店	神奈川県川崎市川崎区藤崎3-5-1 トークピア川崎4階
南関東支店	神奈川県伊勢原市田中257-2 ホワイトメンヤマキ2階
浜松支店	静岡県浜松市篠ヶ瀬町502-1
名古屋支店	愛知県高浜市小池町2-15-10
大阪支店	大阪府大阪市北区中津1-15-15 中津第2リッチビル5階
調達グループ	調達技術第1・2グループ 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階
調達室	東京 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階 大阪 大阪府大阪市北区中津1-15-15 中津第2リッチビル5階 名古屋 愛知県高浜市小池町2-15-10 北関東 群馬県太田市西矢島581-6 諏訪 長野県諏訪市沖田町1-96-2 広瀬橋Sビル 南関東 神奈川県伊勢原市田中257-2 ホワイトメンヤマキ2階 日立 茨城県ひたちなか市田彦998-7 海外 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階

### 海外事業拠点

北米	OHASHI TECHNICA U.S.A., INC. TENNESSEE BRANCH INDIANA SALES OFFICE
タイ	OHASHI TECHNICA U.S.A. MANUFACTURING INC. OHASHI TECHNICA (THAILAND) CO., LTD OHASHI SATO (THAILAND) CO., LTD.
英国	OHASHI TECHNICA UK, LTD. NORTH EAST SALES OFFICE
中国	大橋精密電子(上海)有限公司 大橋精密件(上海)有限公司・広州事務所

### 国内関係会社

株式会社	オーティーシートライポロジー研究所 東京都新宿区西新宿2-3-1
株式会社	オーティーシーロジスティクス 東京都国立市谷保3999-6